

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071602384		
法人名	医療法人 三井会		
事業所名	グループホームくましろ武番館		
所在地	福岡県久留米市北野町石崎162-1 (電話)0942-41-3398		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果確定日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは筑後川流域で耳納連山を望み、四季を感じる事ができる環境である。お宮掃除やさぎっちょ等の地域行事に参加したり、ホームの地域交流祭（夏祭り）や餅つきなどの行事には、子供会や老人会の方々にも参加して頂き、交流を図っている。災害時には、ご協力いただけるよう自治会や消防団の方々にもお願いし、訓練にも参加して頂いている。入居後もかかりつけ医や協力医療機関と連携が図れており、早めの対応で安心感を提供できている。ご希望があれば、ホームで看取りを行っている。認知症になられても最期までご本人らしく穏やかに過ごせる様支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和6年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は2階建ての2階に2ユニットあり、1階は小規模多機能ホームである。地域住民との関わりは密接にされており、収穫したての野菜のおすそ分けや、職員の接遇に関するお褒めの言葉もある。ヒヤリハット報告も積極的であり、重大事故を防止するため、リスク軽減に対する取り組みも徹底している。食事は陶器に盛り付けられ、家庭的な雰囲気ですることが出来る。入浴は毎日準備しており、個浴に浸ることができない利用者も、1階の小規模多機能ホームの機械浴を利用できる。散歩を含めた外出支援は、家族の協力を得ながら利用者の生活スタイルが継続できるよう支援している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム開設時に職員が全員で考案「皆さんとの絆」し作ったものを大切に今も受け継ぎ、理念の唱和を行っている。理念は各ユニットに掲示している。	全職員で協議して作った事業所理念は開設当初から継続している。地域密着の視点は基本方針に盛り込み、実践している。職員は朝礼時や夕方の申し送り時に理念を唱和し、意識を高めている。管理者は日々職員が実践できているか確認し、必要あれば声をかけて指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、回覧板も回ってきている。地域の公民館やお宮の掃除、総会などにも参加している。コロナ禍の前は、ホーム行事のお祭りや餅つきなどにも地域の方々に参加頂いていた。	事業所として自治会に加入し、地域活動に参加している。お宮や公民館の清掃や、敬老会、地域ケア会議に参加している。地域住民が採れたての野菜をおすそ分けする等、日常的に交流している。コロナ禍前は園児や小学生の訪問、中学生の職場体験、高校生の介護実習の受け入れをしていたため、依頼があれば再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして、出前講座・認知症カフェ等を開催し、当ホームも参加している。また、地域包括支援センターと連携し認知症高齢者の方が、安心して暮らせるように意見交換会や「北守るっ隊」を北包括全域で取り組み活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政や包括職員、民生委員や自治会長等に参加をいただき、近況報告やご意見をいただいている。頂いたご意見は、会議などにて職員に伝えている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。会議では行事予定や利用者の状況、ヒヤリハット、事故状況等を報告している。利用者や家族の参加がないため、代替としてアンケートを実施して意見を聴くようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業所協議会の交流会においてすぐに相談できる関係作りにも努めている。	家族から金銭面に関する相談があり、行政との連携が必要と判断して積極的に働きかけている。生活保護や障害者手帳の申請の際には、家族と一緒に行政窓口へ同行している。行政からの声かけで地域住民に対する出前講座の講師として介護職員を派遣した実績もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束適正化廃止委員会を開催し、管理者・委員（一般職員）で施設ラウンドや聞き取りを行い会議を開催している。会議内容については、ユニット会議や閲覧にて報告。施錠については、夜間のみ防犯のため行っているが昼間は自由に入出入りできるようにしている。	日中玄関は施錠していない。ベランダも自由に出入りできる。マニュアルを整備したり、研修を実施したり、身体拘束適正化廃止委員会を実施する等、不適切なケアが無いよう取り組んでいる。ベッドからの転落に対して衝撃を和らげるようマットを設置したり、行方不明者捜索訓練を実践し、あらゆるトラブルリスクを想定し、軽減できるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化廃止委員会と同日日に高齢者虐待防止委員会を開催。虐待研修は年に2回と新人職員は入職後に研修を受講。更に、法人介護事業部が定期的に来所し、職員面談（ヒヤリング）を行っている。また、月1回の産業医ラウンド・年1回ストレスチェックを行い、ストレス解消に向けての働き方改革の改善に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。また、管理的立場の者は、権利擁護推進員養成研修を終了し、職員への指導として、身体拘束や高齢者虐待防止等に役立っている。	成年後見制度に関するパンフレットを事業所出入口に設置し、いつでも相談できる体制を整えている。介護職員も家族からの相談に対して専門職への橋渡しができるよう相談手順を確立している。権利擁護に関する研修を受講し、報告書にまとめて、全職員へ回覧することで制度理解に努めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中から、ご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は、毎月介護相談員の方が来られ利用者に声をかけられていた。ご家族へは、面会時等に全職員が積極的に声かけを行い、ご意見やご要望をお聞きするように努めている。直接いつらい時は、行政機関の窓口をお伝えしており、いつでもご連絡されるよう伝えている。	職員は利用者や家族との日頃のコミュニケーションの中で得た意向を実践できるよう努めている。コンビニへの買い物や食べたい物の意向、法事や結婚式の参加について実践している。家族からの意見や苦情は真摯に受け止め、書面を作成し、全職員に周知し、対応するよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に統括や管理者が意見を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見は、否定せずに聞くようにしている。	管理者は、月1回のユニット会議で職員から意見を収集するほか、日頃から職員の意見を聴き、スムーズな運営に努めている。業務内容に関しては、職員からの意見で食器洗いのタイミングや遅出の業務内容を改善している。外出もタイミングが良ければ職員主導でタイムリーに実践できる。外部評価項目も全職員へ配布し、聞き取りを行い評価をまとめている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行っている。普段と違う様子が観られる時には個別に話を聞いている。休みははほ希望とおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして活動して頂いている。	勤続年数が高い職員も複数名在籍している。学校と契約し、法人施設内で実務者研修が受講できるため、無資格での入職後、資格取得のための支援が手厚い。研修・資格内容によって受講料の補助もある。資格取得した際には、その資格を活かすことができる部署への配置転換も可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為に、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し希望者についてはできるだけ参加出来るように勤務調整している。	管理者が受講した人権研修を伝達研修する予定である。日頃から認知症高齢者に対する関わり方や外部への接遇に対して職員同士で意見交換したり、虐待に関する研修会等を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。施設内外研修は、ZOOMを使用している。また、学生の実習を積極的に受け入れている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所協議会の研修会や交流会、久留米市の研修会などに参加し情報交換や意見交換を行い、質の向上に努めている。コロナ感染状況に応じて電話やZOOMなどで情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくご本人にも見学をしていただくようお願いしている。どんな些細なことでも心配事を話していただき、どういう生活を送りたいかをお聞きし、ホームとしてできる事をお伝えしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧にお聞きし、少しでも安心してご入居できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からだけでなく、関係機関からも情報収集しホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを持ち、接する様心がけている。洗濯物など出来る事を一緒に行っている。携帯をお持ちの方等は、ご家族からの連絡時間（毎日）を確認し、その都度対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず、声かけ等の際も接する様になっている。出来ることは、一緒に行ったり、教えて頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり、買い物に行ったり、病院受診の際には、知り合いの方とお話をされたりしている。ホームに以前、担当されていた民生委員や友人も訪ねて来られる。	職員は利用者の生活歴や嗜好等の把握に努め、繋がりや保てるよう実践している。友人の訪問や電話の支援、年賀状のやり取り、ネイルアートや美容院、こだわりのコーヒー豆の買い物への外出支援を家族の協力を得て実践している。病院受診の際には昔の友人に会うこともあり、コミュニケーションが保たれる一つの場所となっている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣のユニットへ行かれて会話したり、気のあう方同士だけで難しい場合は、職員が間に入っている。出来る方が出来ない部分を助けられている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もホームに来られ思い出話をされている。退去された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からご希望をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。	入居時には、必ず利用者及び家族と面接し、思いや意向を確認している。職員は日々の関わりの中で、その時々を利用者の思いや意向を把握し、それを支援に反映できるように努めている。意思疎通が困難な利用者については、表情から思いを汲み取ったり、家族から話を聞いたりしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やそれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人全体で利用者情報の共有化（パソコン管理）を実施。更に、ホーム独自の生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況は把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞き取りをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようにしている。ご家族からは面会時に必ず要望等を聞き取りしている。毎月カンファランスを行い、介護計画を作成している。	利用者や家族の思いを反映させた個別具体的な介護計画を作成している。毎月カンファランスを行い、医師や看護師の意見も踏まえ、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、6ヶ月に1回は、家族を含めた担当者会議を開催して見直しを行っている。見直しの結果については、計画変更の有無に関わらず、家族へ説明し、了承を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとにケース記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が目をとおすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。現在、コロナが5類に変更され、ご家族との外出も緩和できている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴をご家族や関係機関等から聞き取りし、それまで利用されていたお店や場所を把握するように努めている。また、入居前に関わられていた民生委員さんも訪問されている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も密に測り合っている。	入居前からのかかりつけ医の受診や、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。受診は基本的に職員が同行支援している。家族が支援する場合でも、職員が事業所の車で送迎したり付き添ったりしている。受診結果等の情報は常に家族と共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、週に2回訪問され、健康チェックを始め、体調管理をお願いしている。また、24時間オンコール体制も取れているので、安心して随時相談できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人やご家族が不安にならないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファランスにも必ず参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を聞きながら、主治医や訪問看護と連携を図り、看取りケアを行っている。看取り指針を作成し、同意書をとっている。穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。	重度化した場合や看取りの対応については、事業所の指針を明文化しており、入居時に利用者と家族に説明を行って同意を得ている。看取りの実施にあたっては、利用者や家族の思いを大切にし、医師や看護師と連携しながら、全職員で支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成している。看護師による救命講習を職員に実践講習を行っている。来年度より、法人全体で全職員対象として、普通救命講習を開催予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP作成に取り組んでいる。現在は、災害マニュアル（火災・地震・水害）を基準に訓練計画を実施している。（1階の小規模と協力）訓練時は、地域の民生委員の方々も参加して頂いている。	災害時対応マニュアルを整備している。火災時の避難訓練は地域の自治会長等にも参加を呼びかけ、年2回実施している。うち1回は消防署の協力を得て、夜間を想定して実施している。訓練では、水消火器を使った消火訓練や、煙の体験訓練も行っている。非常用食料・飲料水・トイレ用の水・備品を事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切に支援を心がけている。言葉遣いや声のトーン等に気を配ったり、親しみやすが慣れ合いにならないように気を付けている。トイレや更衣の際には、必ずドアを閉めたり、声かけを行ってから介護するようにしている。	プライバシー保護に関する研修を行い、職員の意識向上を図っている。職員は常に利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。馴れ馴れしい言葉遣いをしないようにも気を付けている。トイレ誘導の声かけはさりげなく小声で行う、トイレのドアは必ず閉める等している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、できるだけ自己決定を促している。また、地元の小規模サービスを利用しながら生活されていた身内の方や知人との交流が断ち切れないように、ご家族の承諾を得て、ホームへの面会をお願いしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じで、ご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。。買い物や散歩、外出もコロナ禍終息に伴い、少しずつご本人の希望に沿うように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気を付けている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食などの利用者が楽しめる食事を提供している。飲み物もコーヒーやジュース等を用意している。また、食事形態やお漬物等を日によって提供する物を変えながら、食欲が増すように心がけている。感染予防の継続にて、食事は利用者と食べることは出来ていない。	利用者はできる範囲で食事の片付けを手伝っている。コロナ禍前は職員と利用者は一緒に食事をとっていたが、現在は別々にとっている。誕生会では手作りケーキ等を提供している。利用者と一緒にどら焼きを作ったこともある。地域の人から旬の野菜をいただいた際は、調理して朝食の献立に加えたりしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミなども状態に合わせて提供している。食事がすすまない時には、食べれる物をお出ししたり、晩酌希望の方には、夕食時にお酒を準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。うがいができない方は、ガーゼで口腔内残渣物を拭き取りしている。義歯は、週に2回洗浄剤に漬けている。口腔内で気になることがあれば、訪問歯科（契約機関）へ相談報告している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方の動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。	職員は排泄チェック表等により、利用者の排泄のパターンやサインを把握し、トイレ誘導を行っている。できる限りトイレで排泄できるよう支援しており、過去にはトレーニングパンツから布パンツに変更した事例もあった。おむつやパットの種類については常に見直しを行っている。利用者が失禁した際は羞恥心に配慮して対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認し、腹部マッサージを行い、出来るだけ薬を使用しないよう努めている。食事に食物繊維を含む食べ物やバナナや牛乳などを提供し、スムーズな排便ができるように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入りたい時には、隣のユニットでも入れるようにしている。拒否がある時は、時間をおいたり、他の職員に交代して声かけしている。	曜日や時間帯を決めず、月曜日から日曜日まで、午前・午後いつでも入浴できるように準備している。2日に1回の入浴を基本としているが、希望に応じて毎日入浴している利用者もいる。入浴を望まない利用者には、無理強いせず、時間を置いて再度声かけしたり、別の職員から声かけしたりして入浴を促している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間も特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休んでいただいたり、ホールでテレビを観たりと思い思いにゆっくり過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は訪問看護ステーションが行っている。飲まれている薬の作用や副作用が分かるように処方箋を介護職員も見られるようにしている。誤薬がないように準備や服薬時、服薬後トリプルチェックをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯物干しやお盆拭き等出来る方は積極的に参加している。誕生日には職員の手作りケーキでお祝いしている。また、近所への買い物支援として一緒に出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、新型コロナウイルスの状況に応じて、法人基準であるフェーズに基づき、規制したり緩和したりしていたが、今年の5月より5類に変更になったことで、以前のような普通の暮らしができるように今後、活動していきたい。	利用者のその日の希望に沿って外出できるよう支援している。散歩は週1～2回行っている。コロナ禍前は、季節ごとの花見や地域のお祭りの他、週2回程度買い物にも出かけていた。結婚式や法事の際に職員が送迎したり、付き添ったりしたこともある。現在、徐々に外出再開しており、令和5年度は久々に地域のお祭りに出かけ、馴染みの人と交流できている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、少額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけ、好きなお菓子等を購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話された時には、番号を押してかけられる様にしている。手紙も年賀状等自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は職員が代筆している。贈り物が届いた等は、送り主にお礼の電話をかけ、ご本人と話しをしてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。利用者同士会話したり、懐かしい曲や時代劇等を観たり新聞を読んだりして過ごされている。	居間のソファやテーブル、椅子は、利用者が思い思いにゆったりと過ごせるように配置されている。所々に鉢植えの花が置かれ、利用者が好んで水やりをしている。壁や廊下には地域の人からいただいた色とりどりの飾り物等が吊されている。ベランダへは自由に入出入りができ、いつでも新鮮な空気に触れることができる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。また、共用空間の中でも、友達同士で寛げる空間としてソファを置いたり、となりのユニットにも気軽に行かれるように、施設内をフリーにしているため、自由に生活が出来る環境を築いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人やご家族にそれまで使われていたお部屋のベッド等の配置をお聞きし、出来るだけそれに近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。	居室には筆筒や家族写真、ブリザードフラワー等、利用者の馴染みの物、好きな物が持ち込まれている。利用者が作成した貼り絵なども飾られている。居室の入り口には植物の写真が飾られている。また、居室ドアに利用者の顔写真を貼るなど、利用者が自分の部屋だと認識しやすいよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室には、分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、ホーム開設時に職員が全員で考案「皆さんとの絆」し作ったものを大切に今も受け継ぎ、理念の唱和を行っている。理念は各ユニットに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、回覧板も回ってきている。地域の公民館やお宮の掃除、総会などにも参加している。コロナ禍の前は、ホーム行事のお祭りや餅つきなどにも地域の方々に参加頂いていた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の取り組みとして、出前講座・認知症カフェ等を開催し、当ホームも参加している。また、地域包括支援センターと連携し認知症高齢者の方が、安心して暮らせるように意見交換会や「北守るっ隊」を北包括全域で取り組み活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、行政や包括職員、民生委員や自治会長等に参加をいただき、近況報告やご意見をいただいている。頂いたご意見は、会議などにて職員に伝えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、報告や相談を行っている。久留米市主催の研修会や事業所協議会の交流会においてすぐに相談できる関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘適正化廃止委員会を開催し、管理者・委員（一般職員）で施設ラウンドや聞き取りを行い会議を開催している。会議内容については、ユニット会議や閲覧にて報告。施錠については、夜間のみ防犯のため行っているが昼間は自由に出入りできるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化廃止委員会と同日日に高齢者虐待防止委員会を開催。虐待研修は年に2回と新人職員は入職後に研修を受講。更に、法人介護事業部が定期的に来所し、職員面談（ヒヤリング）を行っている。また、月1回の産業医ラウンド・年1回ストレスチェックを行い、ストレス解消に向けての働き方改革の改善に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は、勉強会を行っている。職員は詳しい説明までは出来ないが、こういう制度があることや相談窓口をお伝えできるようにしている。また、管理的立場の者は、権利擁護推進員養成研修を終了し、職員への指導として、身体拘束や高齢者虐待防止等に役立てている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく入居後も状態報告だけでなく積極的に声かけを行っている。改まってよりも何気ない会話の中から、ご本人やご家族の不安や要望等を汲み取るよう努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前は、毎月介護相談員の方が来られ利用者に声をかけられていた。ご家族へは、面会時等に全職員が積極的に声かけを行い、ご意見やご要望をお聞きするよう努めている。直接いつらい時は、行政機関の窓口をお伝えしており、いつでもご連絡されるよう伝えている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や勤務時間中に統括や管理者が意見を聞くようにしている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、職員の意見は、否定せずに聞くようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回全職員がスキルアップシートを作成し、それをもとに面談を行っている。普段と違う様子が観られる時には個別に話を聞いている。休みははほ希望とおり入れており、急な勤務変更にも対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	グループホームは、家庭的な生活の場なので、年齢や性別、資格や経験にとらわれず幅広く採用している。趣味や特技をホーム内外で生かして活動して頂いている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の意識付けの為、内部研修を行っている。外部研修もチラシ等を回覧し希望者についてはできるだけ参加出来るように勤務調整している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での新人研修や接遇、感染症等の研修に参加している。施設内外研修は、ZOOMを使用している。また、学生の実習を積極的に受け入れている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業所協議会の研修会や交流会、久留米市の研修会などに参加し情報交換や意見交換を行い、質の向上に努めている。コロナ感染状況に応じて電話やZOOMなどで情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族だけでなくご本人にも見学をしていただくようお願いしている。どんな些細なことでも心配事を話していただき、どういう生活を送りたいかをお聞きし、ホームとしてできる事をお伝えしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族が心配されている事や思いを丁寧にお聞きし、少しでも安心してご入居できるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からだけでなく、関係機関からも情報収集しホーム内で話し合いをして支援方法を決めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを持ち、接する様心がけている。洗濯物など出来る事を一緒に行っている。携帯をお持ちの方等は、ご家族からの連絡時間（毎日）を確認し、その都度対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人生の先輩としての気持ちを忘れず、声かけ等の際も接する様になっている。出来ることは、一緒に行ったり、教えて頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も地域行事に参加したり、買い物に行ったり、病院受診の際には、知り合いの方とお話をされたりしている。ホームに以前、担当されていた民生委員や友人も訪ねて来られる。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣のユニットへ行かれて会話したり、気のあう方同士だけで難しい場合は、職員が間に入っている。出来る方が出来ない部分を助けられている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もホームに来られ思い出話をされている。退去された方からご近所や知人の方の相談をお受けする事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族からご希望をお聞きしている。意思表示が困難な方は、表情や言動で汲み取っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴をお聞きしている。関係機関やそれまで生活されていた近所の方等からも情報を頂いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	法人全体で利用者情報の共有化（パソコン管理）を実施。更に、ホーム独自の生活チェック表を活用し、排泄や食事の状況をは把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、普段の会話の中で聞き取りをしたり、表情等から少しでも汲み取って反映するようにしている。ご家族からは面会時に必ず要望等を聞き取りしている。毎月カンファランスを行い、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとにケース記録や生活チェック表を記入している。気になることや変化があれば申し送りノートに細かく記入し全職員が目をとおすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望をお聞きし、話し合いながら支援している。病院受診やご自宅への送迎も行っている。現在、コロナが5類に変更され、ご家族との外出も緩和できている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴をご家族や関係機関等から聞き取りし、それまで利用されていたお店や場所を把握するように努めている。また、入居前に関わられていた民生委員さんも訪問されている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医や緊急時の医療機関の確認を行っている。それまで診て頂いている主治医に継続して診ていただき、細かいことでも報告し、指示をもらって対応している。協力医療機関との連携も密に測り合っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、週に2回訪問され、健康チェックを始め、体調管理をお願いしている。また、24時間オンコール体制も取れているので、安心して随時相談できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人やご家族が不安にならないよう病院と連携をとっている。入院時は、面会に行ったり、洗濯物もホームで行っている。病院のカンファレンスにも必ず参加している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を聞きながら、主治医や訪問看護と連携を図り、看取りケアを行っている。看取り指針を作成し、同意書をとっている。穏やかにご本人らしく最期を迎えられるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成している。看護師による救命講習を職員に実践講習を行っている。来年度より、法人全体で全職員対象として、普通救命講習を開催予定。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体でBCP作成に取り組んでいる。現在は、災害マニュアル（火災・地震・水害）を基準に訓練計画を実施している。（1階の小規模と協力）訓練時は、地域の民生委員の方々も参加して頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思を大切にされた支援を心がけている。言葉遣いや声のトーン等に気を配ったり、親しみやすが慣れ合いにならないように気を付けている。トイレや更衣の際には、必ずドアを閉めたり、声かけを行ってから介護するようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心がけている。理解できるような言葉やコミュニケーション方法を用い、できるだけ自己決定を促している。また、地元の小規模サービスを利用しながら生活されていた身内の方や知人との交流が断ち切れないように、ご家族の承諾を得て、ホームへの面会をお願いしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間は、全員同じで、ご本人のそれまでの生活リズムに出来るだけ合わせている。。買い物や散歩、外出もコロナ禍終息に伴い、少しずつご本人の希望に沿うように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には、特に気を付けている。普段着る服も、ご本人が選んで頂けるよう支援している。外出の際には、お気に入りの服を選ばれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や行事食などの利用者が楽しめる食事を提供している。飲み物もコーヒーやジュース等を用意している。また、食事形態やお漬物等を日によって提供する物を変えながら、食欲が増すように心がけている。感染予防の継続にて、食事は利用者と一緒に食べることは出来ていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認している。食事形態や水分のトロミなども状態に合わせて提供している。食事がすすまない時には、食べれる物をお出ししたり、晚酌希望の方には、夕食時にお酒を準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、清潔を保つようにしている。うがいができない方は、ガーゼで口腔内残渣物を拭き取りしている。義歯は、週に2回洗浄剤に漬けている。口腔内で気になることがあれば、訪問歯科（契約機関）へ相談報告している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分で意思表示は出来ない方の動きやしぐさを見逃さないようにしたり、排泄チェック表により、排泄間隔を確認し、出来るだけトイレ誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を確認し、腹部マッサージを行い、出来るだけ薬を使用しないよう努めている。食事に食物繊維を含む食べ物やバナナや牛乳などを提供し、スムーズな排便ができるように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入りたい時には、隣のユニットでも入れるようにしている。拒否がある時は、時間をおいたり、他の職員に交代して声かけしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間も特に決めず、その方の生活リズムに合わせている。昼間も眠い時には居室で休んでいただいたり、ホールでテレビを観たりと思い思いにゆっくり過ごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は訪問看護ステーションが行っている。飲まれている薬の作用や副作用が分かるように処方箋を介護職員も見られるようにしている。誤薬がないように準備や服薬時、服薬後トリプルチェックをしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、洗濯物干しやお盆拭き等出来る方は積極的に参加している。誕生日には職員の手作りケーキでお祝いしている。また、近所への買い物支援として一緒に出かけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは、新型コロナウイルスの状況に応じて、法人基準であるフェーズに基づき、規制したり緩和したりしていたが、今年の5月より5類に変更になったことで、以前のような普通の暮らしができるように今後、活動していきたい。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方は、少額のお金を持たれている。買い物は、職員と一緒に出かけ、好きなお菓子等を購入されている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話された時には、番号を押してかけられる様にしている。手紙も年賀状等自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は職員が代筆している。贈り物が届いた等は、送り主にお礼の電話をかけ、ご本人と話しをしてもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。利用者同士会話したり、懐かしい曲や時代劇等を観たり新聞を読んだりして過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテレビを置いてゆっくり過ごせるようにしている。また、共用空間の中でも、友達同士で寛げる空間としてソファを置いたり、となりのユニットにも気軽に行かれるように、施設内をフリーにしているため、自由に生活が出来る環境を築いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にはご本人やご家族にそれまで使われていたお部屋のベッド等の配置をお聞きし、出来るだけそれに近い環境を作るようにしている。馴染みの物をお持ち頂くようお願いしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室等全てバリアフリーになっている。また、廊下には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしている。トイレや浴室には、分かりやすいように大きく表示している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		